

商 業

1 学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

学習評価は、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

実際の評価においては、教科「商業」の目標の実現に向けた学習の状況を把握するために、指導内容や生徒の特性に応じて、単元や題材など内容のまとまり(※1)を見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で評価を行う必要がある。

学習指導要領（平成30年告示）においては、「知識及び技術」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理された資質・能力を身に付けさせることを明確にするため、「1 目標」を三つの柱で整理するとともに、「2 内容」については、学習指導要領解説において指導項目の大項目ごとに三つの柱で示している。この三つの柱で示された観点は、1回の授業で全ての学びが実現されるものではないため、単元の中で、学習を見直し振り返る場面やグループなどで対話する場面、生徒が考える場面等を設定し、学びの実現を図っていくことが重要である。

【図1 指導項目による単元の構成(例)】

第16 情報処理 ← 科目

(1) 企業活動と情報処理 ← 指導項目(大項目) ②

ア 情報処理の重要性

イ コミュニケーションと情報デザイン ← 指導項目(小項目) ①

ウ 情報モラル

(2) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク

ア コンピュータシステムの概要

イ 情報通信ネットワークの仕組みと構成 ← 指導項目(小項目)

ウ 情報通信ネットワークの活用 ← 指導項目(小項目)

エ 情報セキュリティの確保と法規

(3) 情報の集計と分析

ア ビジネスと統計

イ 表・グラフの作成と情報の分析

ウ 問題の発見と解決の方法

(以下省略)

内容や時間のまとまりで
考える

※1 生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各学校の実態に応じて適切に構成したものである。単元を構成するには、①〔指導項目〕を小項目ごと、いくつかに分けて単元とする場合や、②〔指導項目〕を大項目ごとに単元とする場合、③いくつかの小項目を組み合わせる場合などが考えられる。そのため、各学校において商業の科目を設置した目的を踏まえ、生徒や地域の実態、学科の特色に応じて適切に単元を設定することに留意する必要がある。

(2) 評価の観点及びその趣旨

教科「商業」における「評価の観点及びその趣旨」は、学習指導要領に示された目標を踏まえ、次のとおり示されている。

観 点	趣 旨
知識・技術	商業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

(3) 評価規準の設定

(1) 図1の①で示した科目「情報処理」における指導項目「(1) 企業活動と情報処理」の「コミュニケーションと情報デザイン (小項目)」を基に、単元の評価規準の設定の手順を例示する。

手順① 【指導項目】を基に、単元全体を通して、単元の目標を作成する。

学習指導要領解説	科目「情報処理」 ア 情報処理の重要性 ウ 情報モラル	〔指導項目〕(1) 企業活動と情報処理 <u>イ コミュニケーションと情報デザイン</u>	
	知識及び技術 企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	思考力、判断力、表現力等 情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだすこと。	学びに向かう力、人間性等 企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組むこと。

解説では文末を「～すること」と記載されている。

【小項目を単元とした場合の目標の作成 (例)】 単元全体を通して、単元の目標を作成する。

知識及び技術 企業における情報デザインについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	思考力、判断力、表現力等 企業における情報デザインの意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだす。	学びに向かう力、人間性等 企業における情報デザインについて自ら学び、情報の適切な表現と活用に主体的かつ協働的に取り組む。
--	--	---

文末を「～する」とし、単元の目標を作成する。

手順② 「〔指導項目〕ごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

【〔指導項目〕ごとの評価規準】

知識・技術 企業における適切な情報処理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	思考・判断・表現 情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	主体的に学習に取り組む態度 企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
--	---	--

〔指導項目〕の記載事項の文末を「～すること」から「～している」に変換したものを「〔指導項目〕ごとの評価規準」と呼ぶ。

【単元の評価規準】 学習活動から生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

知識・技術 企業における情報デザインについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	思考・判断・表現 企業における情報デザインの意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	主体的に学習に取り組む態度 企業における情報デザインについて自ら学び、情報の適切な表現と活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
---	---	--

文末を「～している」とし、単元の評価規準を作成する。

【主体的に学習に取り組む態度 (自らの学習を調整しようとする側面) の評価 (例)】

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	学習した内容を踏まえて、情報の適切な表現と活用について考察し、自分の意見をおおむね調整しようとしている。	学習した内容を踏まえて、情報の適切な表現と活用について考察し、自分の意見を十分に調整しようとしている。	情報の適切な表現と活用について、自分の意見を調整することができない。 【手立て】 ワークシート返却時に、良い例を積極的に取り上げるとともに、生徒には個別に指導し今後を生かす。

単元の評価規準を基に学習評価を実施する。

(4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

観点別学習状況の評価を実施するに当たっては、各観点において、次のことに留意する必要がある。

観 点	実施上の留意点
知識・技術	ビジネスに関する個別の事実的な知識、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず、それらが相互に関連付けられるとともに、具体的なビジネスと結び付くなどした、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術、将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにする。
思考・判断・表現	商業の各分野などの学習を通して身に付けた様々な知識、技術などを活用し、ビジネスの実務における課題など地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度や、企業を社会的存在として捉えて法規などに基づいてビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度等を養うようにする。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

○ 単元（〔指導項目〕）における観点ごとの評価の総括

観点ごとの評価結果を総括するには、例えば、「(ア) A、B、Cの数を基に総括する場合」、「(イ) A、B、Cを数値に置き換えて平均値を基に総括する場合」が考えられ、評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校の実態に応じて検討していくことが望まれる。

ここでは、「(ア) A、B、Cの数を基に総括する場合」及び「(イ) A、B、Cを数値に置き換えて平均値を基に総括する場合」の2つの例を以下に示す。

(ア) 評価結果のA、B、Cの数を基に総括する場合

ある観点で何回か行った評価結果のA、B、Cの数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているとする考え方に立つ総括の方法である。例えば、3回評価を行った結果が「A B B」となった場合、Bと総括することが考えられる。なお、「A A B B」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や三つの記号が混在した場合の総括の方法は、あらかじめ各学校で決めておく必要がある。

（「A、A、B、B」の総括の結果をBとしている例）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 1	A	A	B
単元 2	B	B	A
単元 3	B	B	A
単元 4	A	C	A
前 期	B	B	A

(イ) 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて平均値を基に総括する場合

ある観点で何回か行った評価結果A、B、Cを、例えばA＝3、B＝2、C＝1やA＝5、B＝3、C＝1のように数値によって表し、合計したり平均したりする総括の方法である。例えば、A＝3、B＝2、C＝1とし、総括の結果をBとする範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ とした場合、「A B B」の平均値は、約2.3 $[(3 + 2 + 2) \div 3]$ で総括の結果はBとなる。なお、評価の各節目のうち特定の時点に重きを置いて評価を行うこともできるが、その際、平均値による方法等以外についても様々な総括の方法が考えられる。

(総括の結果をBとする範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ としている例)

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元1	A (3)	A (3)	B (2)
単元2	B (2)	B (2)	A (3)
単元3	B (2)	B (2)	A (3)
単元4	A (3)	C (1)	A (3)
前期	B (2.5)	B (2.0)	A (2.75)

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 科目「情報処理」指導項目「(1)企業活動と情報処理」の計画例

この単元では、企業における情報処理に関する知識、技術などを基盤として、情報処理の意義と課題について自らの考えをもつとともに、企業における適切な情報処理についての意識と意欲を高め、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

ア 単元の目標

- (ア) 企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (イ) 情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだす。
- (ウ) 企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 指導と評価の計画（20時間）

指導項目（小項目）		授業時間数	
1	情報処理の重要性	6時間	20時間
2	コミュニケーションと情報デザイン	8時間	
3	情報モラル	6時間	

各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次のとおりである。なお、学習活動においては学習支援ソフトを活用し、一人一台端末での学習を想定している。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考	教師の指導
2	<p>2 コミュニケーションと情報デザイン⑤⑥</p> <p>情報の受け手に対して、「伝えたい意図」を的確に表現するための要素の構成、配置及び図解の表現方法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンセプトシートに「伝えたい意図」を各要素ごとに入力するとともに、コンセプトシートを基に、ポスターを編集する。 編集したポスターに、他の生徒が意見や感想をコメント欄に入力する。（「伝えたい意図」が明確になるようアドバイスをする。） コンセプトシート及びポスターを提出する。 	思 知 態	○	<p>5・6時間目</p> <p>ワークシート(7)</p> <p>相互評価</p> <p>学習支援ソフト</p>	<p>学習支援ソフトでコンセプトシートとポスターを配付する。コンセプトシートの入力内容を基に、「伝えたい意図」を的確に表現するよう、ポスター編集の指示をする。</p> <p>ポスターの編集後、ファイルの共有設定を変更させ、コメント欄に意見や感想を入力させる。</p> <p>コンセプトシートと他の生徒がコメント入力したポスターを、学習支援ソフトより提出させ、評価及び改善の視点をコメントする（個人内評価を促す）。</p>
2	<p>2 コミュニケーションと情報デザイン⑦⑧</p> <p>他者の意見を基に適切な情報デザインに主体的かつ協働的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の授業で得た、他の生徒の意見や教員の評価を基に、作成したポスターの修正を行うとともに、修正した内容を、他の生徒のコメント欄に返信する。また、コメント欄を確認し、自らの学びを振り返る。 コンセプトシートを参考に、修正されたポスターのデザインの相互評価を行う。評価の入力には、アンケートフォームを活用する。 コンセプトシート及びポスターを提出する。 	態 態 態	○ ○	<p>7・8時間目</p> <p>ワークシート(1)</p> <p>相互評価</p> <p>観察 ワークシート(1)</p>	<p>学習支援ソフトで、コンセプトシートとポスターを生徒に返却し、他の生徒のコメントや教員の評価を基にポスターを修正させる。</p> <p>アンケートフォームのコメント欄に、他の生徒が作成したポスターの評価や感想を入力させる。</p> <p>コンセプトシート及び、ポスターの修正を通じて「自らの学習を調整しようとする側面」、「粘り強い取組を行おうとする側面」を評価する。</p>

エ 評価問題等

(ア) ワークシート

教員は、2種類のワークシート（コンセプトシート及びポスター）を、学習支援ソフトを利用して配付する。

【入力前のコンセプトシート】

コンセプトシート ○番 名前 (○○ ○○)

昨年度実施された販売実習会において次のような結果となった。下記のデータから問題を話合ったところ、ポスターを改善する必要があると意見が上がった。

	目標	結果	売上金額合計	目標	結果
集客数合計	2,000人	1,500人	400,000円	450,000円	
午前	1,400人	1,000人	A商品	100,000円	80,000円
午後	600人	500人	B商品	50,000円	60,000円
購入者数合計	1,000人	900人	C商品	50,000円	45,000円
		

- 1 昨年度のデータの問題点を上げなさい。
- 2 問題点からポスターのコンセプトを考えなさい。
- 3 次の要素について、改善するポイントを説明しなさい。
文字（フォントの種類やサイズ）について
図形について
色彩について
構成について

※ 他の生徒の意見を基に修正する場合は、コメントを入力すること。

【入力後のコンセプトシート】

コンセプトシート ○番 名前 (○○ ○○)

昨年度実施された販売実習会において次のような結果となった。下記のデータから問題を話合ったところ、ポスターを改善する必要があると意見が上がった。

	目標	結果	売上金額合計	目標	結果
集客数合計	2,000人	1,500人	400,000円	450,000円	
午前	1,400人	1,000人	A商品	100,000円	80,000円
午後	600人	500人	B商品	50,000円	60,000円
購入者数合計	1,000人	900人	C商品	50,000円	45,000円
		

- 1 昨年度のデータの問題点を上げなさい。
集客数が目標より少ない。売上金額合計は目標を達成しているが、売上目標に至らない商品が複数ある。
- 2 問題点からポスターのコンセプトを考えなさい。
集客数を増やすため、5W3Hを表示する。主力の商品を大きく、見やすくし、販売促進する。
- 3 次の要素について、改善するポイントを説明しなさい。
文字（フォントの種類やサイズ）について
図形について
色彩について
構成について

※ 他の生徒の意見を基に修正する場合は、コメントを入力すること。

① 「伝えたい意図」を入力する。

【編集前のポスター】

○○高校 販売実習会

リード文
販売実習会の内容を紹介します。

A商品 B商品 C商品 D商品

日時：○月○日（○曜日）
○○：○○～

場所：○○高校
連絡先：○○○-○○○○-○○○○（担当 ○○）

【編集後、他の生徒はコメントを入力】

○○高校 販売実習会

リード文
販売実習会の内容を紹介します。

A商品 500円 B商品 400円

C商品 200円 D商品 500円

日時：○月○日（○曜日）
○○：○○～

場所：○○高校
連絡先：○○○-○○○○-○○○○（担当 ○○）
～ お待ちしております！ ～

02 生徒02
10:15 今日
タイトルのイメージが分からない。

03 生徒03
10:16 今日
もう少し大きい方が見やすい。

04 生徒04
10:16 今日
終了時刻は？

② コンセプトシートを基にポスターを編集する。

③ 学習支援ソフトを利用し、2つのワークシート（コンセプトシート及びポスター）を回収するとともに、教員はワークシートに評価及び改善の視点を記入したものを返却する。

(イ) ワークシート

生徒1は、教員からの評価や他の生徒からのコメントを参考に、ポスターを修正する。

指導に生かす評価（教員からのアドバイス）

- ①ゴシック体と明朝体の与える印象の違いを確認すること。
- ②ポスターを作成する意義を考え、商品の内容がひと目で分かるように工夫すること。
- ③来客の年齢層を考え、情報の受け手の視点から内容を工夫すること。

【完成したポスター】

「指導に生かす評価①」を参考に修正

〇〇高校 販売実習会

リード文
販売実習会の内容を紹介する。

本校生徒とフランスで製菓を学んだパティシエが共同開発！	浦河産のイチゴと標茶町の牛乳を使用したこだわりの商品！
 <p>A商品 500円</p>	 <p>B商品 400円</p>
絞りたて新鮮な果物をそのまま詰めました！	港町釧路の工場で製造した大トロサーモンの缶詰！
 <p>C商品 200円</p>	 <p>D商品 500円</p>

日時：〇月〇日（〇曜日）
〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場所：〇〇高校

連絡先：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇（担当 〇〇）
～ お待ちしております！ ～



販売実習会の場所や商品情報はQRコードから読み取れます！

02 生徒02
10:15 2日前
タイトルのイメージが分からない。

01 生徒01
13:29 今日
ゴシックで親しみやすいイメージにしました。

「指導に生かす評価②」を参考に修正

03 生徒03
10:16 2日前
もう少し大きい方が見やすい。

01 生徒01
13:34 今日
大きくして目立たせました。

04 生徒04
10:16 2日前
終了時刻は？

01 生徒01
13:35 今日
終了時刻を入れました。

生徒1の修正コメント

① 生徒1は、他の生徒のコメントを自分の考えと比較してポスターを修正する。修正内容をポスターのコメントに追記し、他の生徒へ報告する。

② 「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、相互評価におけるコメント入力を基に、生徒がポスター修正に取り組む状況の評価する（自らの学習を調整しようとする側面）。また、他者の意見を傾聴し、ワークシートの修正に集中して取り組んでいるか、生徒の観察を通し評価する（粘り強い取組を行おうとする側面）。

(2) 科目「情報処理」指導項目「(3)情報の集計と分析」の計画例

この単元では、統計、表・グラフの作成など情報の集計と分析に関する知識、技術などを基盤として、ビジネスに関する情報の集計と分析に対する要求などに基づいた適切な情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

ア 単元の目標

- (ア) ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (イ) ビジネスに関する情報の集計と分析について要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善する。
- (ウ) ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	ビジネスに関する情報の集計と分析について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 指導と評価の計画 (35時間)

指導項目 (小項目)	授業時間数
1 ビジネスと統計	5時間
2 表・グラフの作成と情報の分析	20時間
3 問題の発見と解決の方法	10時間
	35時間

各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次のとおりである。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考	教員の指導
2	<p>3 問題の発見と解決の方法③④</p> <p>問題の発見と問題解決のプロセスを明確化するための方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業にとっての問題と、その解決のためのプロセスを理解する。 ・問題を明確にするため、情報を収集・整理する方法を科学的な根拠に基づいて整理する。 	知 思	○	3・4時間目 ペーパーテスト(7)	<p>PDCAサイクルを通して、問題解決とは、常に見直しを続けることだということを意識させる。</p> <p>MECEやブレインストーミング、KJ法を実際に体験させることで、留意点を理解させる。</p>
2	<p>3 問題の発見と解決の方法⑤⑥</p> <p>企業活動の改善に利用される分析ツールについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する情報の収集と分析において利用される様々な分析ツールについて理解する。 ・事例をもとに分析ツールを活用し、科学的な根拠を用いて情報をどのように評価・改善するのかを考え、グループで意見を出し合う。 	知 思	○	5・6時間目 ワークシート(1) 観察	<p>他の分析ツールとの特徴を比較させ、分析ツールの理解を深めさせる。</p> <p>特定の方法に偏らず、自分の伝えたい内容を適切に伝えるには、どのような方法を選択したらよいかを意識させながら指導する。</p>

エ 評価問題等

(ア) ペーパーテスト (定期考査)

問1 あなたは、学生向け英語教材のターゲット分析のため、顧客を以下のように分類しました。

(顧客分類) 小学生、中学生、高校生、予備校生、受験生

この分類方法はMECEを満たしていない部分があります。それはどこか指摘しなさい。

(解答例) 中学生及び高校生の一部、予備校生、受験生は「受験」という要素が重複している。また、ターゲットに「大学生」の分類が漏れている。

問2 問題を整理・分析する方法としてKJ法がある。KJ法を行う際に気を付けなければならないことを、次のキーワードを用いて説明しなさい。

(キーワード) グループ化、関係性

(解答例) KJ法は問題の全体像や関係性を把握するためのものなので、その関係性がぼやけないよう、どのグループにも属さないようなアイデアを無理矢理グループ化しないことが大切である。

(イ) ワークシート

問1 次の文章を読み、(1)、(2)の問いに答えなさい。

あなたは半年後に販売される清涼飲料水の新商品「どさんコーラ」の開発責任者及び商談会のプロジェクトリーダーです。

(1) あなたが市場調査をする場合、どのような分析ツールを使用するとよいと思いますか。また、その分析ツールを選んだ理由を空欄に記入しなさい。

【理由】 **【分析ツール名】**

ため、を使用する。

(解答例①) 占有率や成長率を調査するため、PPM分析を使用する。
(解答例②) 特性と要因の関係を整理するため、フィッシュボーン図を使用する。

(2) あなたはこの商談会において、新商品「どさんコーラ」の試作品を、各社のバイヤーに対してプレゼンテーションをすることになりました。この場合、どのように商品をPRするか、資料を活用してPR文を作成しなさい。

<p>資料 SWOT分析</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">強み</th> <th style="width: 50%;">機会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・若者世代に好まれる強炭酸のコーラである ・「どさんこ」のネーミングを利用したお土産市場への投入 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントやライブイベントの増加による炭酸飲料の販売機会の拡大 ・若者世代の清涼飲料市場の拡大 </td> </tr> <tr> <th>弱み</th> <th>脅威</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「コーラ」の 카테고리では競合他社による市場の独占が続いている ・商品の販路不足 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・健康志向による清涼飲料離れ ・エナジードリンクなど新商品の出現 </td> </tr> </tbody> </table>	強み	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者世代に好まれる強炭酸のコーラである ・「どさんこ」のネーミングを利用したお土産市場への投入 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントやライブイベントの増加による炭酸飲料の販売機会の拡大 ・若者世代の清涼飲料市場の拡大 	弱み	脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・「コーラ」の 카테고리では競合他社による市場の独占が続いている ・商品の販路不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康志向による清涼飲料離れ ・エナジードリンクなど新商品の出現 	<p>(解答例)</p> <p>この商品は若者に好まれる強炭酸飲料です。健康志向による清涼飲料離れがありますが、そんな若者でも「このときは飲みたい」と感じられるような瞬間をイメージさせることが重要になると思います。そうした機会としてスポーツイベントやライブイベントなどのシーンを若者にイメージさせることが重要になります。</p> <p>(指導上の留意点)</p> <p>商品のPRに対しては、分析ツールをどのように活用して、課題解決を図るのか、具体的な説明をすること。</p>
強み	機会								
<ul style="list-style-type: none"> ・若者世代に好まれる強炭酸のコーラである ・「どさんこ」のネーミングを利用したお土産市場への投入 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントやライブイベントの増加による炭酸飲料の販売機会の拡大 ・若者世代の清涼飲料市場の拡大 								
弱み	脅威								
<ul style="list-style-type: none"> ・「コーラ」の 카테고리では競合他社による市場の独占が続いている ・商品の販路不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康志向による清涼飲料離れ ・エナジードリンクなど新商品の出現 								

Topic

会計ソフトウェアの活用について

○ コンピュータを活用した会計処理

科目「簿記」では、企業において日常発生する取引を適正に記録するとともに、適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力を育成することに主眼を置く科目である。今回の学習指導要領の改訂では、コンピュータを活用した会計処理の普及に伴う実務の変化を踏まえ、「会計ソフトウェアの活用」に関する指導項目が従前の科目「ビジネス実務」から移行されたので紹介する。

〔指導項目〕

(5) 記帳の効率化

ここでは、科目の目標を踏まえ、伝票の利用など記帳の効率化に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と規準を実務に適用し、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため、次の①から③までの事項を身に付けることができるよう、〔指導項目〕を指導する。

① 記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。

② 記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。

③ 記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むこと。

ア 伝票の利用

イ 会計ソフトウェアの活用

ここでは、会計ソフトウェアを活用することの利点及び会計ソフトウェアを活用して効率的に取引の記録と財務諸表の作成を行う方法について扱い、基礎的な活用方法に関する実習を取り入れる。

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編（平成30年7月） 第11節 簿記」

○ 会計ソフトウェアを利用した会計処理の利点

多くの企業では、コンピュータによる簿記を行うために開発された会計ソフトウェアを利用している。現在は、コンピュータにソフトウェアをインストールするタイプや、インストールが不要なクラウド会計システムが普及している。また、クラウド会計システムは、インターネット環境があれば、コンピュータを活用した会計処理がどこでも利用できる。

会計ソフトウェアの利点

- ① 迅速な処理ができる。
- ② 大量のデータを処理することができる。
- ③ 処理されたデータをいろいろな形式で出力できる。
- ④ 会計データを経営活動に利用しやすい。



クラウド会計システムの利点

- ① インターネットを利用できる環境であればどこでも会計処理ができる。
- ② 銀行の口座や、領収証の画像などの情報を取り込み、システムに反映できる。

○ 紙上と会計ソフトウェアの会計処理

会計ソフトウェアを利用する場合、伝票や帳簿に入力したデータは、関連する各帳簿へ自動的に転記、集計されることから、紙上の手作業による処理よりも、迅速な会計処理ができる。

